

2年 およげないりすさん

本時のねらい

ともだちの気持ちを考えて行動する大切さを理解し、仲良く助け合おうとする心情を育てる。

導入

「今日のお話に出てくる、りす、かめ、白鳥、あひるたちは、仲良くいつでも一緒に遊んでいます。どんなことをしてあそんでいるのかなあ。」

発問①（基本発問）

「りすさんが、『ぼくも一緒に島に連れて行って』とみんなにお願いしているときの、りすさんやかめさんたちの気持ちを考えましょう。」



りす

- ・みんなとしまであそびたいなあ。
- ・みんなにダメっていわれちゃった。ひとりぼっちでさみしいなあ。



かめ、あひる
はくちょう
白鳥

- ・りすさんはおよげないから、いっしょには行けないなあ。
- ・およげる人とおよげない人はぜんぜんちがう。
- ・およげない人と行くより三人の方がたのしい。

発問②（基本発問）

「島で遊んでいるかめさんたちは、どんなことをかえしたでしょうか。」

- ・りすさんがいたら、もつとおにごっこがたのしいだろうなあ。
- ・地上のことはりすさんの方がよく知っているから、りすさんとあそびたかったなあ。
- ・りすさんなら、木にのぼって、木の実をとってきてくれたかもしれないなあ。

この授業から児童は、ともだちの気持ちを大切にして仲良くすると、気持ちいいし、みんなで助け合おうって素敵な事なんだという心情を育てていくことができる。

○教材の記述にはない仲良く遊んでいる場面を想像させることで、児童がより自分事として考えることができた。

○りすの気持ちと、かめたちの気持ちを問うことにより、両者の気持ちを多面的に考えることができた。

○友達ではあるけれど、自分本位に考えて差別してしまうことは、児童の日常生活の中で起こりがちな事である。そのことについて、児童は教材の世界の中で素直に自分の気持ちと向き合い、考えや思いを発言することができていた。

「泳げないりすを島に連れて行くのは大変」というかめたちの本音部分も児童には想像できていた。



「りすがいない方が楽しい」という児童の発言に「ひどい」という声があがり、「りすをひとりぼっちにして、やっぱりかわいそう」というつぶやきがあったところで発問②へ。

○いつも仲良く四人で遊んでいたことを思い出し、りすのいいところや、りすの気持ちを大切に考えた考えが多く出された。